

報道機関各位

平成26年7月22日
小樽開発建設部 広報官
電話 0134-23-9910
(ダイヤルイン)

お知らせ

件名	<ul style="list-style-type: none"> 北海道マルチビジョン21のモデル地域に積丹地域が指定されました 北海道マルチビジョン21コンテスト2013で寿都地域が北海道開発局長賞を受賞しました
----	---

お知らせ内容

7月22日(火)に北海道開発局長から積丹地域が北海道マルチビジョン21のモデル地域として指定され、同日、ホテルポールスター札幌で開催された北海道マルチビジョン21促進期成会総会において、積丹地域マルチビジョン協議会に対し認定証が交付されました。

また、総会では北海道マルチビジョン21コンテスト2013の表彰式も行われ、寿都地域マルチビジョン協議会に対して総合部門賞(北海道開発局長賞)が授与されましたので、お知らせします。

<参考>

1) 北海道マルチビジョン21とは?

北海道の水産食料供給基地としての役割を将来にわたって守り育てていくため、地域の資源を活用しながら多様な主体の連携・協働により活力ある北海道水産業や漁村の目指す姿を定めた長期構想で、H16.6に策定、H25.6に改訂が行われました。

2) 地域マルチビジョンとは?

道内各地域では北海道マルチビジョン21の実現に向けて地域の関係者が協議会を組織し、水産業を核とした地域振興方策となる「地域マルチビジョン」を策定しています。

これまでに道内29地域で策定され、このうち、先駆性や獨創性が認められ、その他地域の模範となる13地域が「モデル地域」の指定を受けていますが、このたび、積丹地域の取組内容等が高く評価されモデル地域として新たに指定されました。

3) 北海道マルチビジョン21コンテストについて

各地域で策定された地域マルチビジョンの実現に貢献する取組を表彰する制度で、モデル地域のなかでも、計画された取組が着実に実行され、特に他地域のモデルとなることが期待される地域に対し「総合部門賞」が授与され、管内からは寿都地域が受賞しました。(全道では2地区のみ。)

<添付資料>

別紙1: 積丹地域マルチビジョン計画の概要

別紙2: 寿都地域マルチビジョン協議会の取組概要 (4/17 開発局プレスリリース資料)

<写真について>

モデル地域認定証授与式、コンテスト2013授賞式の様子を撮影した写真データについては、7月23日(水)以降であれば提供できますので、必要な場合は問い合わせ先までご連絡願います。

問い合わせ先	所 属	役 職 名	(ふりがな) 氏 名	電話番号
	小樽開発建設部 築港課	課 長	やの たかひろ 矢野 隆博	0134-23-5214 ダイヤルイン
小樽開発建設部 築港課	漁港対策官	なかむら ままひろ 中村 雅博	0134-23-5214 ダイヤルイン	

積丹地域マリンビジョン計画改訂版

～積丹ブルーの海と緑の大地のもとに多くの人が集う地域をつくる～
≪平成 26 年3月改訂≫

- ・対象地域：積丹町
- ・積丹町人口：2,516人(H22年国勢調査)
- ・漁港：美国漁港(第3種)、余別漁港(第4種)
- ・漁業就業者：288人(H20年漁業センサス)
- ・漁業経営体：201経営体(H20年漁業センサス)

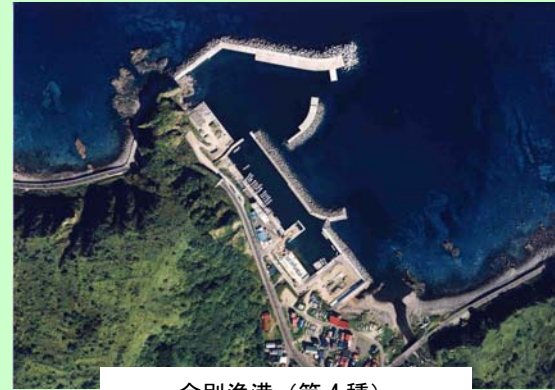
■ 拠点漁港のタイプ

- 美国 ○ 衛生管理流通拠点漁港 ○ 都市漁村交流拠点漁港
- 余別 ○ 防災減災支援拠点漁港 ○ 増養殖支援拠点漁港

拠点漁港



美国漁港 (第3種)



余別漁港 (第4種)

地域の資源等

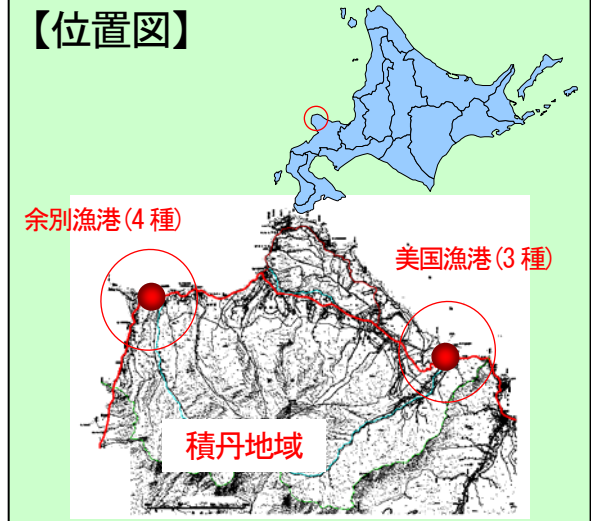


漁協青年部による水産教室



観光イベントでの水産物販売

【位置図】



現状と課題

現状

- 人口・就業者の減少と高齢化
- 天然水産資源の減少
- 磯焼けの進行、海獣による被害
- 夏型から周年型観光地への転換期
- 「積丹ブランド」のウニ

課題

- 各産業間の連携と雇用創出
- (仮称) 漁村センターと海岸環境整備を契機とした地域活性化
- 環境保全の継続と地域文化の継承
- 農水産物の生産管理とブランド化
- 地場製品の加工・地産地消の推進

地域資源(特徴)

- 豊かな自然景観(神威岬、積丹岬等)
- 各団体で取り組む環境教育(水産教室等)
- 一般市民ダイバーと協働した環境保全活動
- 森・川・海の繋がりに配慮した環境保全活動
- 地域住民による地域資源発掘(まちな道)
- 高齢者・女性による加工品製造・販売
- 海産物(ウニ、ホッケ、イカ、サクラマス等)
- 消費者との連携した環境保全型農業
- 冬の魅力と生活文化・産業遺産(鯧漁等)

地域の目指す姿

■ ビジョンの特徴(理念)

年間約80万人の観光客が訪れる道内有数の観光地が持つポテンシャルと、これまで町内で取り組んできた環境保全・文化伝承等の成果を踏まえ、漁港とその周辺における新たな交流拠点整備を契機として、地域産業の連携・協働により雇用の場を創出し、多くの人が集う、活力と賑わいのある地域を目指す。

① 地域活性化の方向性

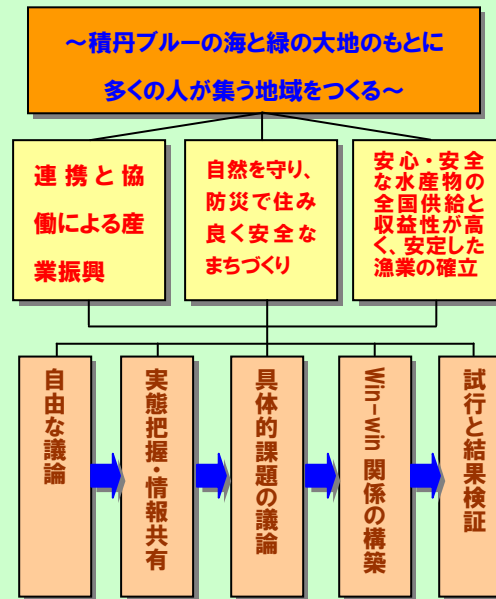
- 積丹ブランドの形成と販売体制の強化、周年型観光の実現による漁業・農業を核に観光関連産業の振興を推進

② まちづくりの方向性

- 産業基盤でもある自然環境保全の推進
- 郷土の自然・歴史・文化・産業に関する体験活動と、防災・減災対策による安心なまちづくりの実現

③ 水産業振興の方向性

- 海域環境の保全、漁場整備の継続実施
- 衛生管理の徹底と蓄養機能の確保による付加価値化
- 他産業と連携した地場消費の拡大、6次産業化の促進



検討の体制

- 事務局(積丹町)
- マリンビジョン検討協議会
漁業関係者、農業関係者、観光関係者、商工関係者、教育関係者、福祉関係者、行政関係者(オブザーバー)

推進・フォロー体制

- 推進体制
 - ・ 産業まちづくり懇話会
 - ・ 生産活動センター(高齢者事業団)
 - ・ 教育関係者
 - ・ 地域住民
 - ・ 積丹町
- フォローアップ体制
 - ・ 積丹町マリンビジョン検討協議会(進捗確認・評価、関係団体への助言)

漁港の将来像

- ① 拠点機能の強化
- ② 衛生管理・流通体制再編への対応
- ③ ストック機能の拡充
- ④ 就労環境の改善(屋根付き岸壁等)
- ⑤ 都市漁村交流の促進
- ⑥ 災害に強い地域づくりへの対応

ビジョン実現のための主な取組み

- 地場消費の拡大を念頭に、町民、観光客のニーズを把握する
- まちの魅力を再発見するため、観光ガイドの育成や地域資源を発掘する
- 産業化を念頭に、小学生の総合学習で水産教室・農業教室等を実施する
- 植樹活動等で団体間の交流を実施する
- 儲かる漁業を目指した衛生管理の強化、つくり育てる漁業の推進
- 加工業への取組み強化による6次産業化の促進

総合部門（北海道開発局長賞）

「寿都地域マリンビジョン協議会」

～寿都・後志ツーリズム交流文化圏の形成～

【概要】

「寿都地域マリンビジョン」は、山・川・里・海がコンパクトにまとまった特徴的な自然、水産業を核とする地域産業、自然と共生した生活・文化といった地域固有の資源を活かしつつ、農林業など他産業や近隣町村との広域・異業種連携を通じて、「寿都・後志ツーリズム交流文化圏」の形成を目指しています。

漁業や海の体験交流事業に加え、黒松内町と連携した山・川・磯等の生物観察や環境保全活動等を組み合わせた多様なツーリズムが展開され、優れた自然環境でもある寿都湾の漁場環境の維持・保全対策も進められています。

【選定理由】

地域マリンビジョンの実現に向け、修学旅行生や一般ツアー客を対象とした漁業体験プログラムを継続的に実施して、新規観光客やリピーターの集客を図る等、都市との着実な交流推進により、地域振興に寄与しています。

また、海の森づくりに向け、町内で発生する水産加工残渣と木材チップから藻類の成長に必要な「栄養塩」の生産供給を行うことにより、コンブをはじめとする藻類を徐々に再生させる等、「海の再生」に向けた独自の取組も評価されました。



修学旅行生による漁業体験乗船（左）と海の再生の取組状況（右）